

なきごえ



1977

6

大阪市
天王寺動物園協会

合成色含

]

三>

動物と私

中村 宏

私は、動物が好きです。しかし、みなさんによんでいただけるような文章が書けるほど動物とのかかわり合いをもったこともありませんし、これといった意見も持っていないので、今まで22年間私の見てきた動物たちについて書いてみます。



私は、昭和29年、西宮球場の近くで生まれました。当時は、車も少なく公害とか自然破壊などというようなことは、あまりなかったと思います。近所に田畑が多く、又、機械化も進んでいなかったため、牛や馬を使っている農家が多くて、農繁期の昼食頃には、あぜ道の杭につながれている牛や馬をよく見にいきました。体をなでてやったり、草を食べさせたり、本当におとなしい動物だったと思います。又、農薬もあまり使われていなかったのか、ドジョウやタニシなどの水生動物が、水田に多く見られましたし、日の暮れるのを忘れて川で魚をとったこともありました。当時の川はきれいなもので、網さえあれば誰にでも、フナやモロコなどが、おもしろいほどとれました。私は、今までにナマズを2回しか見たことがありません。一度見たのがこの頃でした。石のかけにいたのを見たとき、ナマズがあんなにすばやく泳げるとは思いませんでしたので、手でつかまえてやろうと思いましたが、手を近づけると、波もたてずにいなくなっていました。体にさわることでもできなかったのです。二度目に見たのは、宝塚の植木屋の用水桶の中でしたが、小さなナマズでした。

当時は、日が暮れてからも動物がいました。コウモリなどはとくに覚えています。夕方のおうす暗いときに音もたてずに、フワフワと飛んでいるのをよく窓から見えていましたが、昼間のスズメやツバメと、どこか飛び方が違っているし、夕方おそくなってか

らのことですから、子供の私にとってはこわかったです。

西宮球場にナイターを見にいくと、グラウンドの上を、たくさんの蛾が飛んでいました。とても数える気にはならないぐらいの数でしたし、蛾だけではなく、蝶やトンボやカブトムシなどもいたのではないかと思います。

このような動物たちを見ながら、37年9月まで西宮にいました。そして、10月にとなりの宝塚市に移ったのです。となりといっても、宝塚は西宮とくらべると大変な田舎という感じがしました。西宮で見た魚や昆虫はもちろんのこと、山へ行くと、ウサギやタヌキなども見られましたし、一番驚ろいたのは川へ魚を採りにいったときに、イモリがとれたことでした。はじめて見た動物でしたし、あの腹の赤さを見たときは毒を持っているのではないかと思ったぐらいでした。

夜になると、コウモリもいたと思いますが、ホタルがたくさんいたのには驚きました。ホタルというものを、話で聞いたり図鑑で見たりして知ってはいましたが、見たのは、はじめてでした。たくさんいたのにも驚きました。川面一面に、ホタルが光りがやいていました。本でも読めるぐらいでは、なかったかと思えます。

私が、生まれてから37年までは、まだまだ汚されていなかった西宮で、37年から現在までは、自然の豊富な宝塚で、動物たちを見てきましたが、39年の東京五輪の頃から、みるみるうちに自然が破壊されていきました。川は汚れ、山はなくなり、いつも見ていた小動物もいつのまにか見られなくなりました。

そして、自然保護が叫ばれるようになった現在、WWFの会員として、保護運動の手伝いをやらせてもらっていますが、協力してくれない人の多いのには、驚ろいてしまいます。が、強制することはできません。しかし、今残された自然を生かすも殺すも、人間しだいです。もっと大きな目を開いて見守ってほしいものです。

(W・W・F会員)

なきごえ6月号

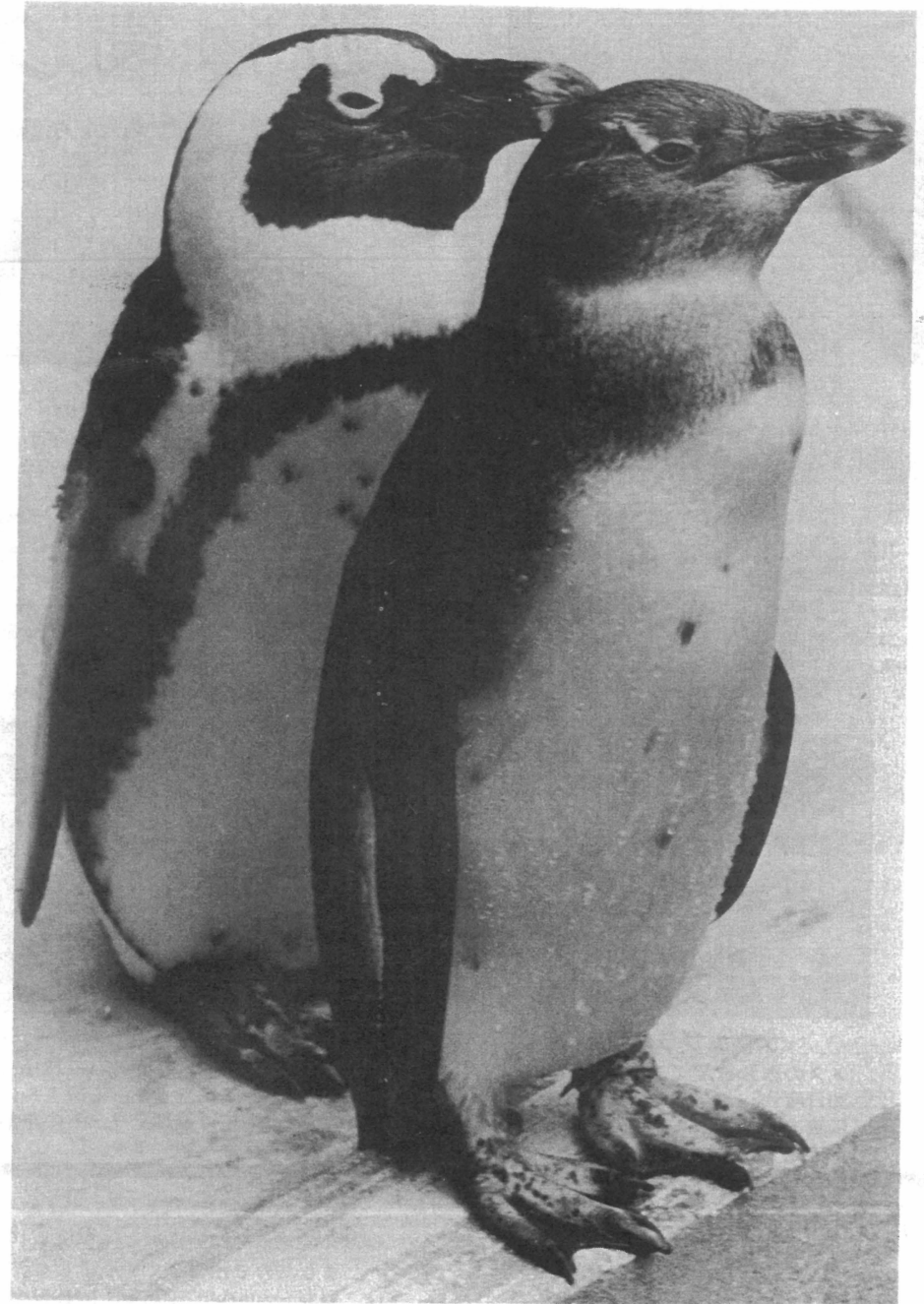
動物と私	2
“ケーペンギンの赤ちゃん”	3
動物園グラフ	4-5
アジアの動物園を見て	6・7・8・9
天王寺動物園サマースクール開講のお知らせ	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“クロサイ”

今年の4月6日に入園したクロサイのオスです。まだ3才位で、小さく、メスのサッチャンとの同居はまだまだ先のようです。

(撮影：宮下 実)



“ケーペンギンの赤ちゃん”

3月10日、ケーペンギンが1羽フ化しました。当園では初めて、日本でも上野動物園に次いで、2番目の記録です。

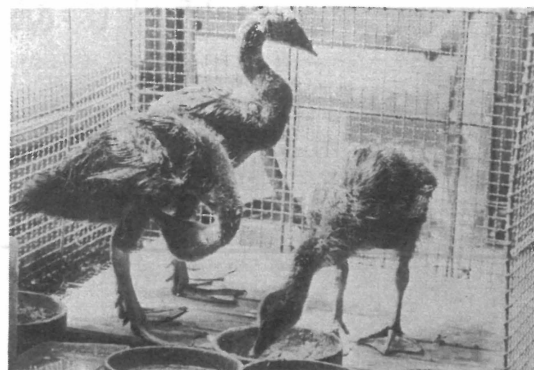
(撮影：長瀬 健二郎)

動物園グラ

“赤ちゃん誕生”

入梅でじめじめした日々が続きますが、動物園では、この春生れた赤ん坊達が元気一杯はね廻っています。

(撮影：宮下 実・長瀬健二郎)



カナダガン

フ化日数は28日。卵から出て1ヶ月もすれば、体重も2kg近くになります。



フタコブラクダ

メスの赤ちゃん“ミル”は3月30日産れ。サクラ母さんの愛情に包まれてスクスク育ち、今では体重も60kg位あります。



バーバリーシープ

3月23日生れのバーバリーシープは双子でした。お母さんに連れられて、コンクリートの急斜面をかけ廻っています。



シュバシコウ

(ヨーロッパコウノトリ)
シュバシコウの赤ちゃんは32日位で卵からかえります。立っているのは親で、すわっているのが赤ちゃんです。



アカカンガルー

カンガルーは30日余りの妊娠期間で産れ、すぐ袋に入って大きくなります。袋に入って4ヶ月位で顔を出すようになり、6ヶ月位で、外で遊ぶようになります。



ニホンシカ

今年は5月25日に1頭、27日に2頭と計3頭のバンビが誕生しました。

4・5月の動物園日記

- 4/7. キングペンギンが食欲不振なので薬を与えています。
8. カラヤマドリがメスがオスにつつかれてケガをしたので治療してやりました。
10. イエローアナコンダ(このヘビは卵胎生なので仔ヘビを産みます。)が3頭出産しました。また、インドニシキヘビが産卵しました。
12. フンボルトペンギンが肺炎に気管支炎を併

発して死亡しました。

15. シマリスが仲間に眼と耳を咬まれてしまいましたので治療してやりました。
16. バングラディッシュのダッカ動物園との動物交換でジャングルキャットのペアが送られてきました。
18. チンパンジーのヨーコが下痢をしているので薬を飲ませました。
20. ダチョウの交尾が確認されました。
24. 春のどうぶつえんまつりが始まりました。
25. ジャングルキャットが寄生虫をわかつてい

たので駆虫してやりました。

26. キングペンギンがようやく食欲を回復しました。
29. シマヘビ1頭の寄贈がありました。
30. スクテのメスが突然起立不全をおこして倒れましたので研究室に収容して治療を始めました。
- 5/2. スクテのメスがすっかり元気になり退院しました。
3. イワシャコ1羽、ウズラ1羽の寄贈がありました。

ピューマのオスが回虫をわかっていましたので駆虫してやりました。

5. ゾウの計量が行なわれ、ラニー博子は1910kgでした。また、前日の予備計量では春子は4510kg、百合子は4180kgでした。ラニー博子の体重クイズでは28,952票の投票があり、適中は2票でした。
6. 産卵をひかえタンチョウ、マナヅル、オオヅルにそれぞれ巣材を与えました。
7. 自然史博物館でボランティアの研修が行われました。

アジアの2・3の動物園を見て

1. バングラディッシュのダッカ動物園

私は、去る3月17日より8日間バングラディッシュのダッカ動物園、インドのカルカッタ動物園、ネパールのパタン市にあるネパール動物園を訪問する機会に恵まれました。これは、当園とダッカ動物園との親善動物交換の話がまとまり、1月にタヌキ、アナグマ各1番を贈ったところ、この新聞報道をご覧になった堺ロータリークラブの飯沼先生から、ちょうど、ロータリークラブと低開発国の医療援助をしている日本キリスト教海外医療協会が、それらの国々へ視察に行くことになっているので、招待しますよとの話があり、私にとって初めて海外に出ることになったのです。

早春の小雨けぶる大阪空港から、私たちツアー一行は、タイ航空機で台北、香港を経由し、タイのバンコックに到着し一泊した。さきに、タヌキたちを送ったときもそうだったが、バングラディッシュまでは直行便がなく、ここで乗りつぎしなくてはならない。タイにもドウシット動物園などがあるので、行きたかったが、これは時間的に全く無理なのでやめたが心残りであった。

ダッカに到着したのが、翌日の昼すぎ、35℃くらいあるかと思われるガラガラした暑い陽ざしが空港にふりそそいでいた。空港は戒厳令下で物々しく着剣した銃を持った兵士が、要所をかためて、黒い顔に口ヒゲ、ギョロリとした目で見すえられているようで、少し緊張したり、日本の平和さを感じたり、であった。

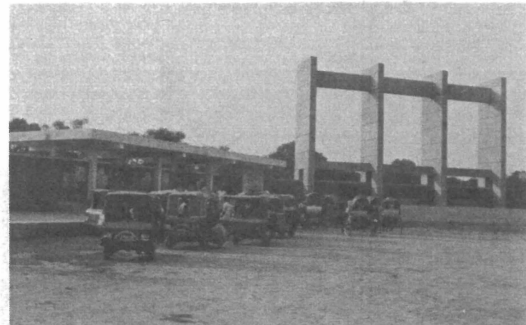
さて、現地のロータリークラブの人々の歓迎を受けたものの、前もって知らせておいた動物園の出迎えがなく、がっかりしたような、ほっとしたような気分だった。それというのも出発前に受け取った大変な歓迎スケジュールを一人でこなすのに少々恐れをなしていたものだから、公式訪問でもなし、こちらとしては気楽に動物園が見たかったのである。

インターコンチネンタルというこの国にしてはと云っては失礼な云い方だが、空港でのポーターの執ようなライターなどの物ねだりや、はだしにボロの腰まき一つの子供たちの物乞い、バスから見る市中の風景からは、立派すぎるホテルに到着した。ロビーに入って、くつろぎかけた頃、4～5人の現地人が何やら私を捜している様子、どうも動物園関係者らしく、空港に出迎えたが、会えなかったので追

かけて来たとのこと。早速動物園に案内するからとのこと、あわてて荷物を部屋に置いてロビーに戻った。幸い現地で3年前から奉仕活動をしている綾部春雄という青年が、同行のロータリーの人々を迎えに来ていたので、ロータリーの方の御配慮で彼に動物園に同行していただけるようになった。彼は、ベンガル語をしゃべり、英語もかなり出来るので好都合であった。

ダッカ動物園は、16マイルくらいはなれたところにあるようで、ホテルからポンコツのタクシーで市街地をぬけ、やがて地道を走って25分くらいで到着した。

正面は、かなり広いスペースをとったものの、動物園を思わせるものはなく簡素であった。



ダッカ動物園の正門

正門近くに事務所のレンガ造りの建物があり、2階の園長室に案内された。ガランとした部屋には、デスクと、天井に扇風機が回っていた。園長は会議中とかで待つことしばし、その間スタッフとジュースを飲んでくつろぐ。

この動物園は、およそ10年前、当時まだ東パキスタンであった頃、上野動物園の栗田彰常氏が海外技術協力団の一員として2年間にわたって、この動物園の建設にたづさわったということです。もっともこれは帰国後だいぶ後になって知ったことで、それまでは、ダッカの動物園には、日本の動物園関係者は一人も来たことがないとかつにも思っていた。

10年も前に建設を初めたのに、まだ国際動物園年報にも建設途中とあり、どんな状態かといふかったが、やはり、印パ戦争とか政変とかによる食糧危機難民の流入など、当時日本の新聞にもバングラディッシュの人々のきゆう情が写真入りで書きたてられていたことを思い出した。園長室の壁に大きくマスタープランが張ってあり、完成までにあと7～8年か

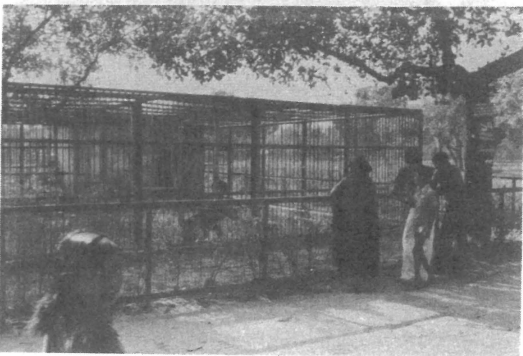
かるということであった。市内から動物園に行く間に見た国会議事堂でさえ約3年前から工事がストップして、大きなレンガの壁が立ち上ったものの、そのまま手をつけられていないと綾部さんが説明してくれた。

動物を早くみたいと思い、事務所を出て、右の方に少し行くとアキシスジカやサンバーのいる広い柵があり、さらに小獣舎に続く。パイプに菱形の金網張りの天井の高い小獣舎は、コの字形に並んでいた。ここには、当園に贈られたジャングルキャットが7頭の他に、フィッシングキャット、オオカワウソ、マングース、大小のインドジャコウネコなどがいた。中でもフィッシングキャットやジャコウネコは美しかった。また、当園から贈ったタヌキとアナグマは、コの字の向い合った動物舎に入られて元気に顔を見せていた。アナグマは、1週間ばかり暑さのためか食欲不振で、あったとかで、出発時よりかなり細くなっていた。



小獣舎

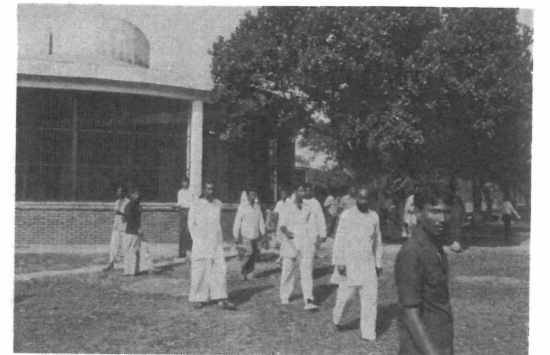
少し行くと、右側に広い低地があり、多くの人が、カゴに土を入れ頭に載せて運搬している風景を見た。池の改修工事のようで、雨期になる前に工事を急いでいるとのこと。ここだけが建設中という感じで活気が見られた。ヒョウ、クロヒョウ、マレー



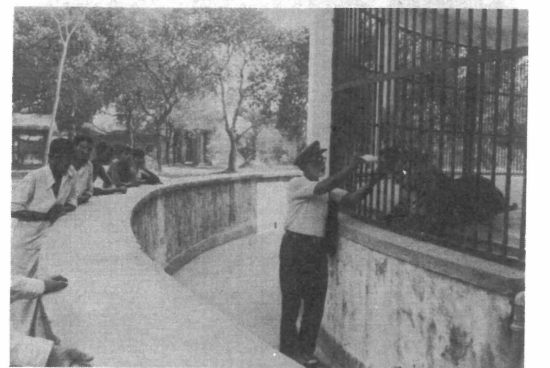
マレーグマ舎

グマなどの檻は、仮小屋だそうで、全く粗末なところに入れられて、少し危なっかしく感じられた。

ライオン舎、トラ舎、いずれも円形のどっしりした大きな建物ですが、鉄格子の旧式な見せ方であった。本場のベンガルタイガーであったが、1頭だけで少しものならない気がした。しかし、係の人に よくなれて、牛乳を飲ませたり、顔をなでて見せてくれた。ライオンは、アフリカライオンで、成獣の雌と、ベルリン動物園から贈られたという子供の雄ライオンが別々に飼われていた。



ライオン舎



トラ舎

動物舎から次の動物舎までゆったりととってあり、この間の芝生には、親子づれの牛がのんびり草を食べていたりした。園内のある部分は、広い耕作地があり、牧草を作って草食獣に与えているとのことですが、将来は、カバやサイの放飼場になる予定だという。爬虫類舎をみる。舎といってもコンクリート水槽に鉄格子をかぶせたというもので、上から客がのぞき込んでいた。ここには、この地の沼や川で普通にいるシャムワニの大きいのが3匹入っていた。他にミズオオトカゲや、インドニシキヘビなど。

この動物園の入園料は大人50パイサ、小人(12才

以下) 25パイサである。

入園者は日中は暑いのでやはり少なく、夕方から多くなるそうである。園内の樹木は大事に育てられているようであった。落葉を子供たちがはき集めて、カマスにつめて持ち帰り、燃料にするのだそうだ。

サルのカージは天井がやたらに高い大きな檻で、中にはカニクイザルやブタオザル、ラングールといったものが、上の方に集っていて昼寝を楽しんでいた。客は、下からサルの尻ばかり見るという格好で、ちょっといただけない。



ナツヤキウリを売る園内の店、後方はキジ舎

午後2時くらいからの訪問だったので、第1日目はこれくらいにしてあとは明日ということで、事務所に戻る。案内は、シラジュール・イスラムという獣医と他に2~3人のスタッフが付添ってくれた。

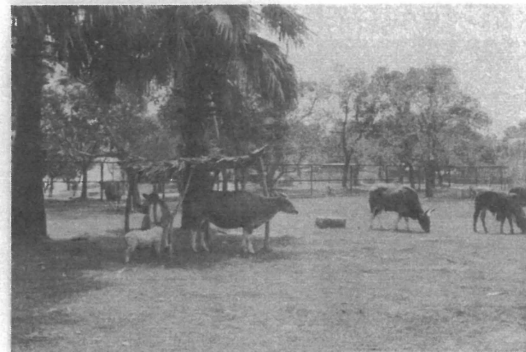
園長宅は、事務所から車で5~6分の園に隣接したところであり、途中には、スタッフの官舎もある。車の運転手がフオンを鳴らすと遠くの方から召使いが飛んで来てゲートをあけてくれた。応接間と思えるホールで待つうち大柄な身体つきの園長が出てこられた。チャウドリー園長であった。来訪のあいさつと用意した土産の品々の他に当園のガイドブック3冊を贈ったら大変喜んでくれた。この園は、国立で園長も政府の高級官僚だそうである。とにかく身分差別のはっきりした国であることが印象づけられた。

紅茶を飲んで、記念撮影をしたあと、明日のスケジュールについて打合せ、おいとまをする。ホテルに帰ったら5時を過ぎていたが、夜も現地ロータリーの人々との例会や孤児院の見学、宣教師の家でのパーティなど盛りだくさんのスケジュールで、ぎっしりであった。

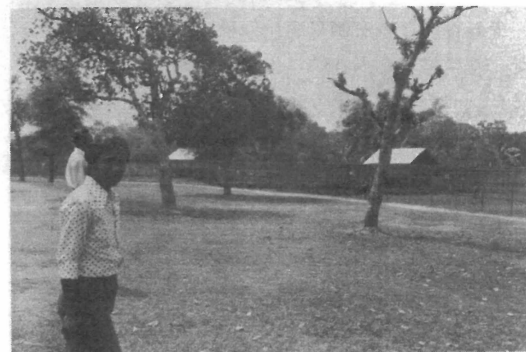
ホテルの後ろには、大きな公園と大学のキャンパスが広がって、森のようになっているの、早朝か

らいろいろな鳥の音がして眼が覚めた。9時すぎに綾部さんがホテルに来てくれたので、一緒に動物園に出発した。一度乗ってみたかった三輪の力車と三輪のタクシーを乗りついで正門についたら、イスラム獣医が出迎えてくれていた。園長室に行って園長にあいさつをして動物や動物園の話が続いた。ちょうど、香港では虫類の動物商をしているという中国人もいて、話はずんだ。園長によると、ダッカでいま欲しいと思っている動物は、次のようなものであった。ライオンをそれぞれ2組の夫婦にしたいこと。オランウータン、カバ、サイ、チョウセンオオカミ、エランド、オリックスなどで、日本中の動物園の御協力をお願いしたいとのことであった。

昨日見残した部分に早速行ってみることにした。園の奥の部分には、ハゲコウの同居したバンテン、セブーなどの広い柵、また、キョンなどの鹿の柵もずらりと並んでいた。

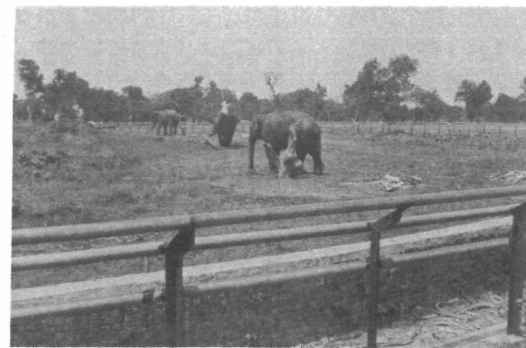


バンテン舎



鹿舎遠景

ゾウ舎は、モート式の広大なもので、南園の半分以上あると思われた。寝室は建てかけたまま放置されて草が茂っていた。ここは4頭のおよくなれたインドゾウがいた。園長の説明によると、近くの森にも野生のゾウがいるということであった。



ゾウ舎

さらに奥には、ハイエナやヒマラヤグマなどの小屋があった。そして、もう一つ広大な池があり、若干のサギやガン、カモのなかまが泳いだり、飛んだりしている。池の向うの岸まで園の敷地だということで直線でも2~3kmあるやに思われた。園長のお話では、園の裏にあるガンジス川の支流では、イルカがジャンプするのが見られるという。また、園内でも野生の小獣が夜にうろうろしているという。ほんとに自然の中にある動物園という感じであった。



ペリカン池

この日の案内の途中、ヒマラヤグマの2才くらいのがどうも元気がないので診て欲しいとのことで、クマ舎の寝室に案内されたが、触れる状態ではなく、ただ問診と望診するだけでしたが、何か熱がありそうで、毛づやも悪く、鼻もかわいていた。駆虫や、抗生物質の投与、餌の改善を指示して、クマ舎を出たが、今ごろどうなっているかチョッピリ気がかりである。

昼食は、わざわざタヌキとアナグマの檻の間に大テントを張って20名ほどのスタッフや園長やその娘さん、例の中国人の方などにぎやかにとった。鶏の丸焼き、ヤキメシ、フルーツにアイスクリーム、紅茶に菓子といったもので、右手指だけで食べるの

が習慣である。

この料理は、綾部さんに聞くと上等の結婚式のごちそうだそうで、よほど歓迎してくれているのだということがあらためて分った。このあと、園長室で、来訪者ノートというべきものに英文で書かされて冷や汗をかいてしまった。3時には、また、池のみえる所に別にテントが張られてあり、ここでお茶の会でゾウの芸とインドコブラのショーを私のために見せてくれた。ゾウに乗らないかということで、写真にとったり、たいへんいい思い出を作ってくれました。

そうこうしているうちに夕方となり、園長やスタッフの皆さんに謝辞を述べておいとまをした。

なお、翌日は空港に4人のスタッフが見送りにきてくれるなど大変好意的で、最初空港におり立ったきびしい人相の兵士などから受けた印象とはまるで変わっていることに気がついたものである。



コブラショー



ゾウに乗って

(天王寺動物園 獣医・主査)

第3回天王寺動物園サマースクール開講のお知らせ

大阪市天王寺動物園と大阪市立自然史博物館との

共催で、夏休み中の子供たちのために、7月24日からサマースクールを開きます。

動物園で動物の観察や飼育の勉強をしたり、博物館で動物の骨格を調べたりするこのサマースクールは、一昨年から始められたものですが非常に好評でしたので、今年は募集人員を昨年の105名(3組)から210名(3組)に増やしました。

サマースクールの実施内容と募集要領は下記の通りです。

1. 日時 7月24日(日)～8月1日(月)

午前9時30分～午後3時

(第1日目のみ12時30分まで)

3組に分けて受講

第1組 7月24日～26日

第2組 7月27日～29日

第3組 7月30日～8月1日

2. 会場 第1日目：大阪市立自然史博物館

(TEL. 697-6221)

第2・3日目：大阪市天王寺動物園

(TEL. 771-8401)

3. 参加資格 小学校4・5・6年生

ただし保護者の同意があって居住地から会場まで毎日通えるもの。

4. 参加経費 1人500円(資料、記念写真代)

5. 持参品 弁当と水筒(第2・3日目のみ)

筆記用具

6. 定員 各組70名、計210名

応募者多数の場合は抽選します。

7. 申し込み方法

7月11日(月)までに必着するよう往復

ハガキで動物園まで申込んでください。

なお、往復ハガキに

(1)サマースクールの第○組に参加希望

(2)住所(電話番号)

(3)氏名、学校名、学年

(4)保護者氏名

を記入し、返信用ハガキにも住所、氏名

を必ず記入して下さい。

[注] 申し込みの組をはっきり指定して

応募して下さい。

8. 参加者の決定

7月12日に抽選のうえハガキで通知します。

9. 内容

天王寺動物園：動物の観察や飼育係の仕事を見学し、動物に関する話を聞く。

自然史博物館：動物の頭や体の骨格を調べたりスケッチする。

10. その他

(1)実習当日の詳細については参加決定者に連絡します。

(2)保護者の参加は送迎のみにしてください。

11. 申し込み連絡先

大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

TEL. 771-8401

動物園ニュース

☆出産動物

昨年暮から袋の中に入っているのが確認されたアカカンガルーの赤ちゃんは、4月に入って袋からやっと顔を出すようになりました。5月中旬現在では時々袋から外へ出たりして元気一杯です。

5月24日、アライグマが1頭誕生しました。母親はこれが2度目の出産で、母子共順調です。

☆ツル舎増築

ツル舎は今まで7室に7種16羽のツル類が収容されていましたが、昨年6月30日に誕生したタンチョウのために、5月に更に1室増築しました。面積は30㎡あります。

☆ペンギンの移動

夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



上本町店(06)779-1231



アベノ店(06)624-1111



奈良店(0742)33-1111

近鉄百貨店



式秤量測定器が寄贈されたのを記念して体重測定を

行ったもので、一番大きな春子が4510kg、二番目の百合子が4180kgありました。一番小さなラニー博子は1910kgあり、この体重を当てるクイズを行ったところ、28952票の投票があり、正解適中は2票でした。

点の大小さまざまな珍しい卵を集めた、クマコ展を北園展示館で開催しています。期間は6月10日から9月10日までです。(次号でグラフ特集予定)

毎月第3月曜日は休園日です。9月までの休園日は下記の通りです。

6月20日、7月18日、8月15日、9月19日

開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。

第3回天王寺動物園サマースクール開講のお知らせ

大阪市天王寺動物園と大阪市立自然史博物館との
共催で、夏休み中の子供たちのために、7月24日か
らサマースクールを開きます。

動物園で動物の観察や飼育の勉強をしたり、博物
館で動物の骨格を調べたりするこのサマースクール

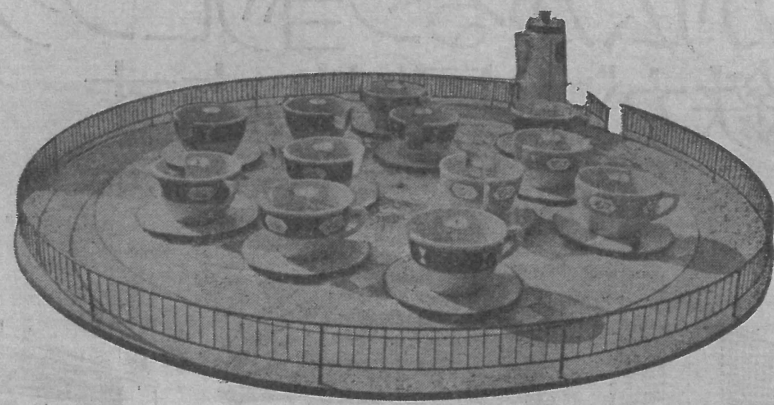
7. 申し込み方法

7月11日(月)までに必着するよう往復
ハガキで動物園まで申込んでください。

なお、往復ハガキに

(1)サマースクールの第○組に参加希望

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

4. 参加経費 1人500円(資料、記念写真代)

5. 持参品 弁当と水筒(第2・3日目のみ)
筆記用具

6. 定員 各組70名、計210名

応募者多数の場合は抽選します。

(2)保護者の参加は送迎のみにしてください。

11. 申し込み連絡先

大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

TEL. 771-8401

動物園ニュース

☆出産動物

昨年暮から袋の中に入っているのが確認されたアカカンガルーの赤ちゃんは、4月に入って袋からやっと顔を出すようになりました。5月中旬現在では時々袋から外へ出たりして元気一杯です。

5月24日、アライグマが1頭誕生しました。母親はこれが2度目の出産で、母子共順調です。

5月25日にはニホンシカが1頭、翌々日にも2頭誕生しました。白い斑点のあるかわいらしいパンビで、元気よく走り回っています。

☆シュバシコウ5羽誕生

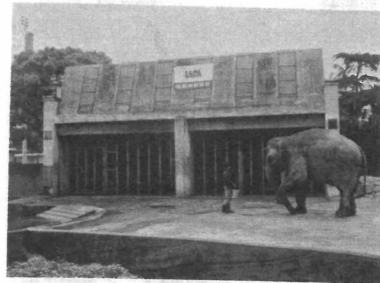
3月末頃より産卵、抱卵をしていたシュバシコウが、5月初旬から中旬にかけて4つの巣で5羽のヒナが誕生しているのが確認されました。ヒナは日ごとに成長しており、8月頃には巣立ちできるでしょう。

☆タンチョウ、オオヅル産卵

5月27日と30日にタンチョウが産卵し現在抱卵中です。昨年1羽誕生しているだけに、今年も大いに期待が持てます。順調にいけば7月早々かわいいヒナがかえることでしょう。又、オオヅルも5月28日、31日と産卵し、抱卵しています。



☆ゾウの体重測定



5月5日の子供の日に、ゾウの体重測定を行いました。これは電子式体重測定器が寄贈されたのを記念して体重測定を行ったもので、一番大きな春子が4510kg、二番目の百合子が4180kgありました。一番小さなラニー博子は1910kgあり、この体重を当てるクイズを行ったところ、28952票の投票があり、正解適中は2票でした。

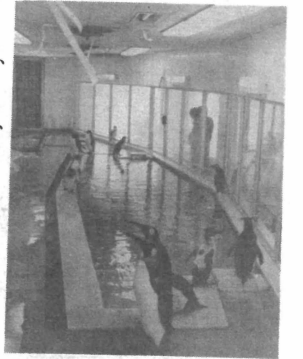
☆ツル舎増築

ツル舎は今まで7室に7種16羽のツル類が収容されていましたが、昨年6月30日に誕生したタンチョウのために、5月に更に1室増築しました。面積は30㎡あります。

☆ペンギンの移動

日ごとに暑くなってきましたが、5月20日、キングペンギン2羽、イワトビペンギン5羽、ケープペンギン1羽をクーラーのよくきいた冷房舎に移しました。室内の温度は15~18℃位に保たれており、涼しい部屋の中でペンギンも快適そうです。

なお、冷房の必要のないフンボルトペンギン、マゼランペンギン、ケープペンギンは戸外のままです。



☆バードウィークにちなむ「野鳥を守りましょう」展開催

バードウィークにちなむ「野鳥を守りましょう」展を5月10日から5月25日まで、北園展示館において、



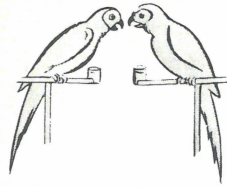
開催しました。これはパネル、スライド、剝製などを用いてわかりやすく野鳥の守り方を解説したものです。

☆「とりどりの卵」展開催

日本各地の動物園の協力を得て、世界一大きいダチョウの卵から最小のハチドリ卵まで、124種347点の大きささまざまな珍しい卵を集めた、タマゴ展を北園展示館で開催しています。期間は6月10日から9月10日までです。(次号でグラフ特集予定)

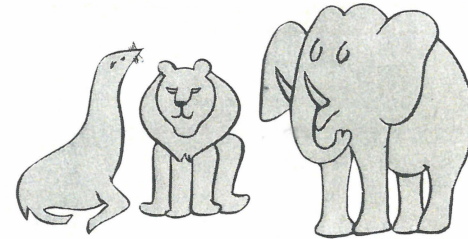
毎月第3月曜日は休園日です。9月までの休園日は下記の通りです。

6月20日、7月18日、8月15日、9月19日
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

〈小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三〉
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明